

# 入 | 母 | 屋 IRIMOYA

新たなコミュニティへの参加を広げる、共用・交流空間を内包した住宅の提案

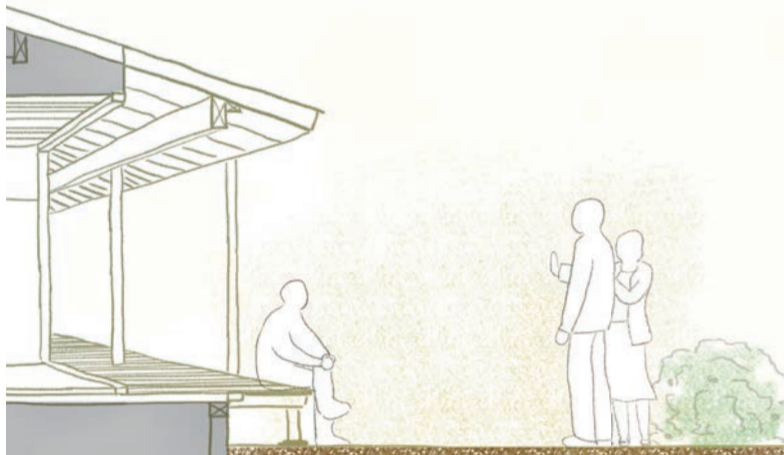


## 1. 背景

集落に引っ越す時の問題点として、集落に形成されているコミュニティに参加することの難しさがある。

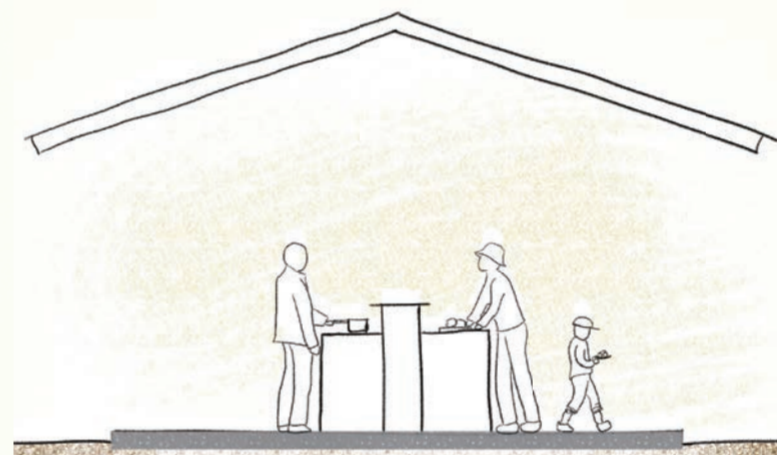
現代の住宅には縁側やテラスなどの半屋外空間が減り、住宅が生活するための機能に終始してしまっていることや、集落自体にシェアスペースなどの共用空間が少なく、住民と積極的に交流することの難しさがある。そのため、地域住民との交流や生活の透明性が不足し、住民との交流を発展させる機会が減少し、コミュニティ参加が難しくなる。

そこで今回は集落を構成する屋根を再構成し、交流が生まれ育まれる半屋外空間や共用空間を内包する住宅を提案する。



半屋外空間は「外」と「内」とをゆるやかにつなぐ中間的な領域。

そこに住む人だけではなく、家族以外の人と交流する「憩いの場」としても活用されていた。



知り合いや、知らない人同士がシェアスペースで交流することで、新たなイベントに発展することや、相手に興味を持つきっかけになり、新たなコミュニティが生まれる。

## 2. 敷地詳細

敷地である集落丸山は兵庫県神戸市に位置している。この集落は消滅の危機に瀕していたが、住民やNPO法人との協力で農泊事業をスタートさせ、集落活性化に成功した。

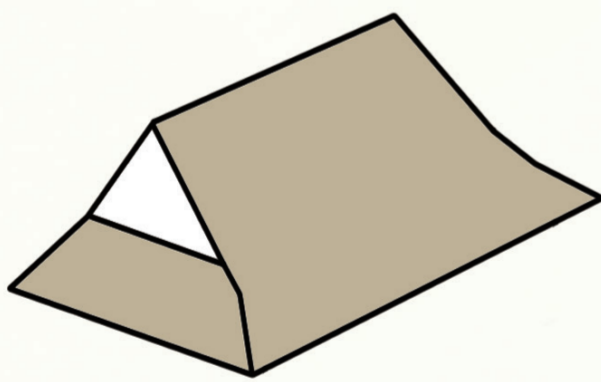
集落丸山の風景を形作っている屋根群は入母屋屋根である。

今回の住宅では、入母屋屋根のコンテキストを継承し再構成することによって、集落丸山の風景との調和を目指した。



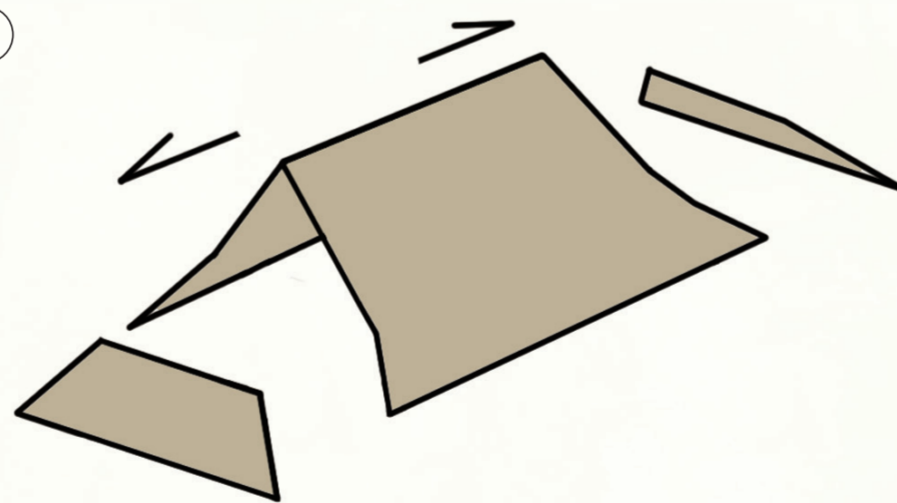
## 3. 入母屋の再構成

①



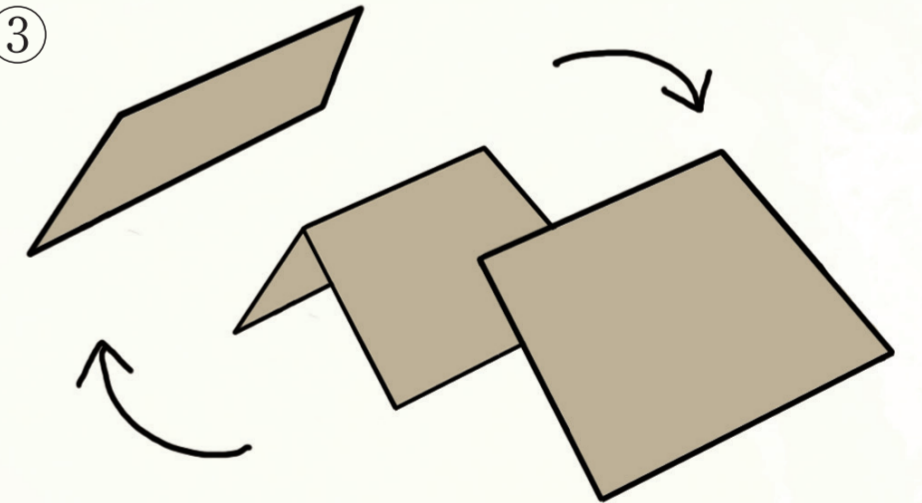
入母屋屋根は母屋と庇の関係で成り立っている。母屋が庇に取り囲まれ「内に入った」構造となっており、一体化している。

②



入母屋屋根を、一体化した母屋と庇と母屋に対して鉛直の庇でそれぞれ分ける。

③



母屋を包み込むように庇を配置し、屋根下に半屋外空間、共用空間、私的空間をそれぞれ配置する。

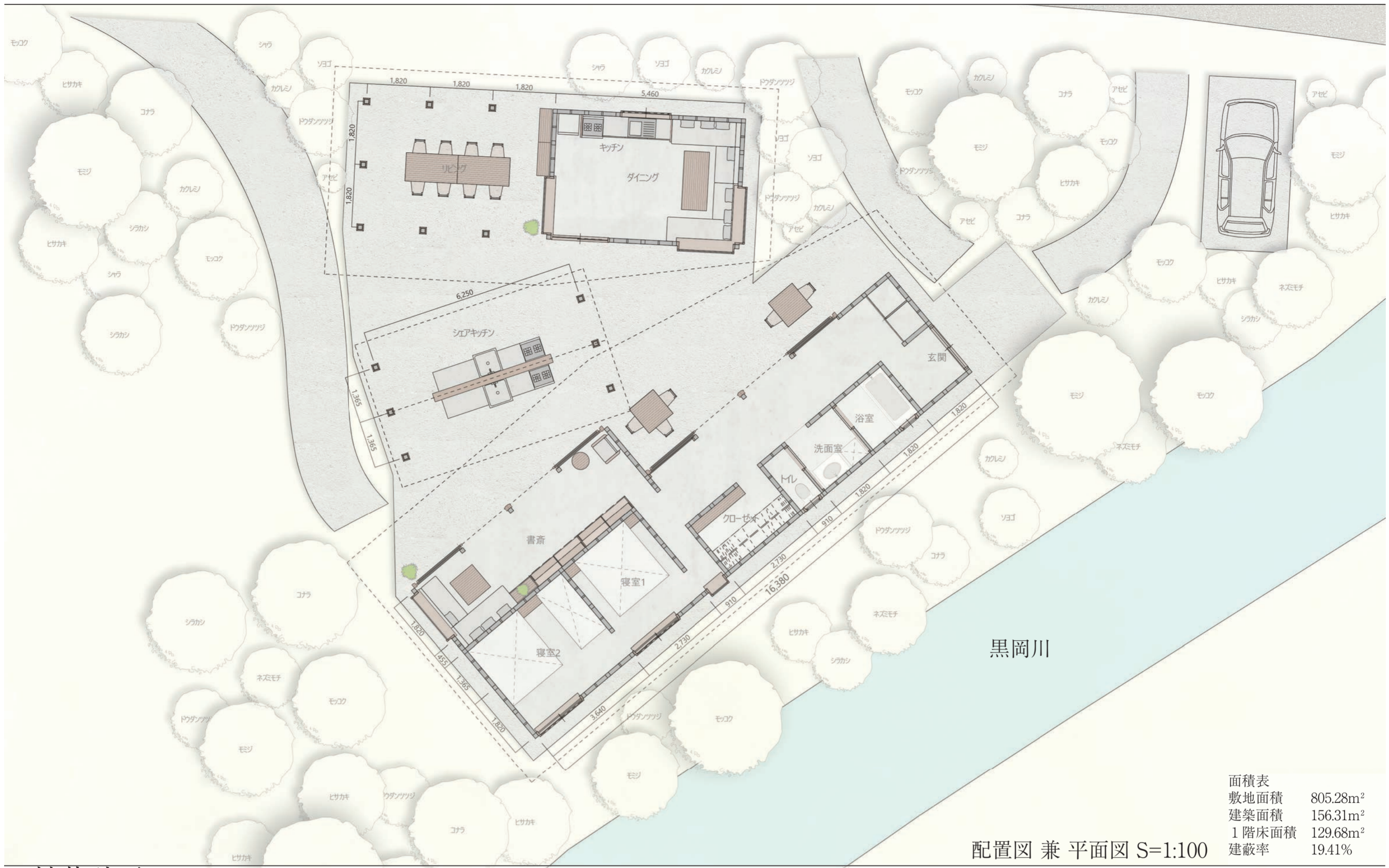


立面図 S=1:100

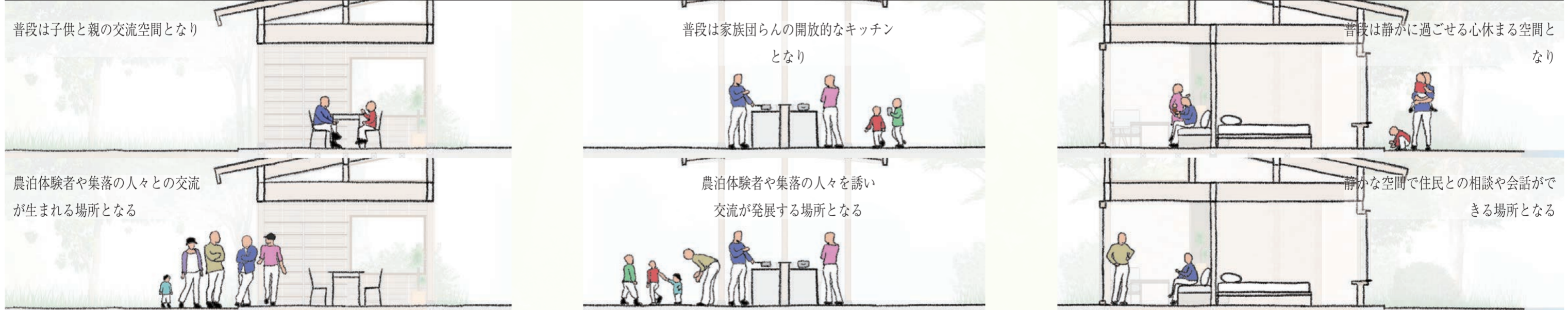
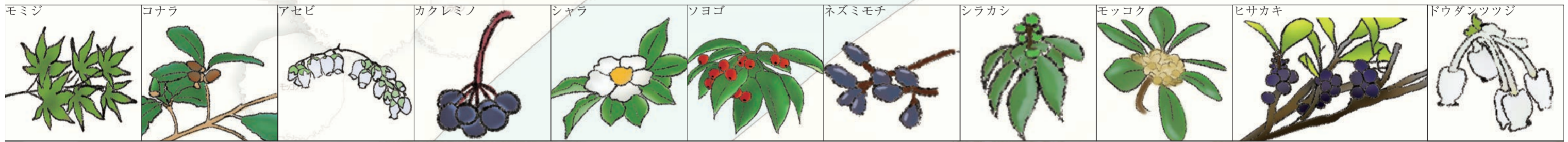
## 4. 家族構成



年齢: 32歳 職業: 都市計画のコンサルタント 趣味: 地域の歴史探求 ガーデニング	年齢: 30歳 職業: 専業主婦 (以前は小学校の教師) 趣味: 料理、手芸 地域のイベント参加	年齢: 8歳 趣味: アウトドア遊び 特徴: 元気で活発な性格。スポーツが好きで、友達と遊ぶことが楽しみ。自然に触れることを喜びとしている。	年齢: 6歳 趣味: 絵を描くこと 特徴: 優しい性格で、想像力豊か。絵を描くことが大好きで、自分の世界を広げている。	年齢: 3歳 特徴: 好奇心旺盛で元気いっぱい。兄に憧れて行動することが多く、いつも笑顔絶やさない。
--	---	--	---	---



## 5. 植栽計画



開放的なリビング空間（半屋外空間）が多くの人々との交流を生む。

共有空間を住宅の中心に配置することで、家族間の交流も生まれる。